

## レトロ調の誘い

最新型の  
ショッピングセンターの片隅に  
レトロ調の駄菓子屋さんが  
一軒 出店をしている

ところ狭しの店内に  
一歩 足を踏み入れると  
幼き日に買った  
一個十円ほどの  
駄菓子が並んでいる  
小さな袋入りのラーメンに  
きなこ棒に  
酸っぱい大根など  
どれもみな懐かしさに包まれている

でも、  
もう……  
幼き日から  
数十年も過ぎてしまい  
駄菓子に手が出ない  
私の手は 大きくなつてしまい  
駄菓子が不似合いな  
年輪が刻みこまれてしまった

でも 何かあるはず  
私の手に似合う  
レトロ調なものが、  
そんな思いに掻き立てられながら

もう少し奥に入って  
見つけてしまった

本綿でできたレトロ調な猫の縫いぐるみを

この子猫なら

私の手に 似合ってくれる

郷愁の匂いのする顔をしているからだ

今は わが家で

マスコットの仲間入りになっている

## ようこそテディベア

何年もの放りっぱなしでいた  
テディベアのセットをひろげ  
ようやく

縫いあげることにした

布は象牙色で

ディストレスモヘアの毛が

植えこんであり

とてもふさふさしているのに

縫うのに抵抗があった

それは 本物のような毛への

ためらいだったのだろう

だから

しまいこんだままでいた

それが

過ぎてしまった時間を

戻すかのように

型紙をあて

布を裁ち

一針 一針

ていねいに縫いはじめたのだから。

手に足に 胴に 頭に

耳

順番に縫い上げていくと

お茶目なテディベアが できあがった

耳もとに

小枝にそえた小花の造花をつけると

テディベアが微笑んだかのようにだ

両腕には

デニムの布と花模様の赤い縮緬布で

縫い合わせてある小熊を  
抱っこさせると

テディベアは  
やさしい母さんに変身した  
二体から ほのぼのムードが  
漂いはじめて来る

今日は  
思いついたら吉日になった  
放っておいた申し訳なさが  
一気に吹き飛んだ

次は  
小熊の赤い縮緬に似た布で  
ベストとスカート、ショートパンツを  
作ってあげよう

どんどん  
時間までもが  
メルヘン一色になり  
抵抗のあった布だったことが  
信じられないほどだ

「ようこそ！」  
私は 数分後に  
洋服を着て

一層 愛らしくなった  
テディベアを思い描いている

## 秋の夜

こもりの夜  
蟬の鳴く夜

寂しさばかりが押し寄せて  
胸の中に  
ぽっかり大きな穴が開いてしまった

時計の振り子の音ばかり  
やたらと大きくて  
息が詰まりそうだ  
ただ

寂しいだけ……  
雄猫のムクが  
悲哀を悟り  
私の傍に ずっと眠っている

誰にも  
言うことのできない  
切々とした得体のしれない喪失感が  
あとからあとから  
湧き出てきて  
どうしたら良いのだろう

今すぐ  
神様の作った清水に出会いたい  
冷たくて透明で  
光に映えて  
美しい 水しぶきをあげる  
そんな水に

秋の夜は 静かすぎて  
私を耐えがたくする